

◆信長モード（主導）

・ 行動の特徴
☐ 結果重視 ☐ 現実的 ☐ 行動が速い ☐ 無愛想 ☐ 単刀直入 ☐ 要点指向 ☐ 野心的、エネルギッシュ ☐ 決断力あり ☐ 支配的、威圧的、競争的 ☐ 人間関係より仕事優先 ☐ 起業家タイプ ☐ 人の話を聞かず、結論を急ぐ
・ 信長モードが優位な人へのアドバイス
● 他者に対する忍耐力を養う ● 他者の気持ちや考えを理解しようとする態度を示す。 ● 他者の気持ちに敏感になる。 ● 人と協調し連帯感を大切にする。 ● 即、反応することを控える。 ● リラックスする方法を知る。 ● 結果だけでなくプロセスも重視する。
・ このモードが優位な人に対する他者の適切なコミュニケーション
● メリット、ベネフィットを強調して話を進める。 ● 速いスピードで対応する。 ● 基本はコントロールしようとしなが、ここぞという時には気概と信念を見せる。 ● あくまで率直に、ポイントを押さえた話し方をし、隠し事をしない。 ● 周囲が攻撃的な外面に惑わされないようにサポートする。

※織田信長について

尾張国の戦国大名、織田信秀の三男として、尾張で生まれる。今川氏や斎藤氏を破り、足利義昭を奉じて上洛を果たし、義昭を将軍位につけるが、その義昭と敵対し武田氏、朝倉氏、延暦寺、石山本願寺などから成る信長包囲網が結成される。しかし、信長はこれをことごとく破り去った。以後は天下布武を推し進める。楽市楽座、検地などの大胆で革新的な政策を採用する。革新性に優れ、既存の権威や勢力（朝廷・仏教など）の否定、家柄門地によらない人材登用、新兵器であった火縄銃の活用などを通して戦国時代を終結へと導く。しかし、延暦寺焼き討ちなどの苛烈な政策から人々に恐れられ、また自ら、魔王（第六天魔王）と称した。最期は家臣・明智光秀の謀反（本能寺の変）により自害した。「なかめなら殺してしまへホトトギス」という句は、織田信長の性急さ苛烈さを今に伝えている。

●織田信長を主人公にした本→「国盗り物語〈第3、4巻〉織田信長編」 司馬遼太郎著

◆秀吉モード（表出）

・行動の特徴
☐ プロセス重視 ☐ 直感的 ☐ 自由な行動 ☐ 愛想が良い ☐ 社交的 ☐ 表現が豊か ☐ 変化指向で状況対応力あり ☐ アイデアが豊富で創造力もある ☐ 人と活気のあることをするのが好き ☐ 楽しいことが好きでエネルギッシュ ☐ 細かいことはあまり気に止めない ☐ あきっぽい
・秀吉モードが優位な人へのアドバイス
- 客観的にデータや手順を分析する。 - 定期的に計画をチェックする。 - 業務の個々の要求事項をきちんと満たす。 - ネガティブな現実にも注意を払う。 - 感情ベースの決定や衝動的な発言と行動を抑える。 - 正確さと論理を重視した発言に注力する。 - 要点をまとめ、論理で肉付けする。
・このモードが優位な人に対する他者の適切なコミュニケーション
- 興味関心を見つけて相手の関心を中心に話を進める。 - 相手を誉めたり認めたりする。 - 自由に発想を広げられるような雰囲気作りをする。 - 否定的なアプローチを避け、ポジティブな形で話を進める。 - 事実やデータを押え、詳細を見落とさないようにサポートする。

※豊臣秀吉について

尾張国愛知郡中村の百姓として生まれ、織田信長に仕え、次第に頭角を表す。「わらじ取り」のエピソードは秀吉の人たらしぶりを今に伝える。竹中半兵衛、黒田官兵衛をはじめとする優秀な部下に恵まれる。また、アイデアに優れており、墨俣の一夜城、金ヶ崎の退き口、高松城の水攻めなどの逸話が伝わっている。信長が本能寺の変で明智光秀に討たれると、中国大返しにより京へと戻り、山崎の戦いで光秀を破り、信長の後継の地位を得る。その後、大坂城を築き関白・太政大臣に任ぜられ、日本全国の大名を従え天下統一を成し遂げた。太閤検地や刀狩などの政策を採るが、慶長の役の最中に、嗣子の秀頼を徳川家康らに託して没した。しかし、豊臣政権は秀頼の代でついでに終わったことはよく知られている。百姓から天下人へと至った生涯は「戦国一の出世頭」と評される。「鳴かずともなかして見せようホトトギス」という句は、豊臣秀吉のアイデア豊富で創造性豊かな人物像を今に伝えている。●豊臣秀吉を主人公にした本→「新史太閤記」 司馬遼太郎著

◆家康モード（友好）

・行動の特徴
☐ 対人関係重視 ☐ 現状維持的 ☐ 協調的な行動 ☐ 穏やか ☐ 友好的 ☐ 受容的 ☐ 安定指向 ☐ 人を援助することを好む ☐ あたたかく、穏やか ☐ 決断には時間がかかる ☐ 人の心を読むのが得意 ☐ リスクを冒すのは嫌い
・家康モードが優位な人へのアドバイス
● 物事を明快に述べ自己主張をハッキリする。 ● 問題解決を効率的に行う。 ● 仕事の手順や対応法が習慣化しすぎないようにする。 ● 変化を嫌わず前向きに取り組む。 ● 躊躇せず率先して行動を起こす。 ● 主体的に達成感と充実感を見出す。 ● 明確な主張をもった発言に注力する。
・このモードが優位な人に対する他者の適切なコミュニケーション
● 安定と安全を確保できる方向に話を進める。 ● ゆっくりとしたペースで段階的に物事を進める。 ● 話している言葉以外の情報に注意を向ける。 ● 相手の協力や努力に対し感謝を伝える。 ● リスクを負わず、一緒に取り組む姿勢でサポートする。

※徳川家康について

戦国時代に三河国岡崎に生まれ、今川家の人質を皮切りに合計 13 年間の忍従の日々を過した。桶狭間の戦い以後、織田信長の盟友として版図を広げる。本能寺の変で信長が明智光秀に討たれると、その混乱に乗じさらに勢力を広げ、海道一の弓取りと呼ばれた。その間、今川義元、織田信長、豊臣秀吉に対して、馬鹿正直なほどの律義者を貫いた。豊臣秀吉との小牧・長久手の戦いを経て秀吉に従い、豊臣政権の五大老筆頭に列せられる。しかし、秀吉の死後は関ヶ原の戦いで勝利し、征夷大將軍に任ぜられ、江戸に幕府を開いた。これらの功績はその後 250 年以上にわたる安定政権の樹立者として評価される一方、鎖国政策や身分制度については「封建的・保守的」との批判も多い。「なかめなら鳴まで待とうホトトギス」という句、「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くが如し…」という言葉は、徳川家康の忍耐強さを今に伝えている。

●徳川家康を主人公にした本→「覇王の家」 司馬遼太郎著

◆三成モード（分析）

・行動の特徴
☐ 論理重視 ☐ 分析的 ☐ 慎重な行動 ☐ 自制的 ☐ 控えめ ☐ 質指向 ☐ プランニングや計画をするのが好き ☐ 客観的、冷静 ☐ 失敗や間違いが嫌い ☐ ルールや基準を好む ☐ 粘り強く、最後までやり遂げる ☐ 変化や混乱には弱い
・三成モードが優位な人へのアドバイス
- 意思決定に消極的にならない。 - 自分と異なる基準や考え方の相手にも耳を傾ける。 - 幅広い協調関係を築く。 - 意見や考えを自発的かつ端的に述べる。 - 広い視野にたってチャレンジする。 - 曖昧さや不確定な要件に対する許容力をもつ。 - 時には現実的な制約による優先順位づけをし、質指向をあえて後退させる。
・このモードが優位な人に対する他者の適切なコミュニケーション
- 客観的な態度で相手の基準や価値観を尊重して話を進める。 - 十分に考える時間と情報を与えながら物事を進める。 - 適度な距離を保ち、冷静な態度で接する。 - 筋道を重んじ、論理的に話す。 - 相手の懸念や不安に対してキメの細かいサポートをする。

※石田三成について

近江国坂田郡石田村の旧家に生まれる。15、16歳の頃、秀吉の長浜領主時代に近習となる。その際の「三杯の茶」のエピソードは冷静で理知的な三成の実像を現在に伝える。また、長浜には帰化人が多くソロバンなどの当時の先端技術が揃っていたと言われている。秀吉が関白に就任したころより持ち前の才覚で頭角を現す。翌年小西隆佐とともに堺奉行となる。やがて浅野長政ら5人の文治派の豊臣氏直属吏僚中、随一の奉行と目されるようになった。その一方で、武断派の加藤清正、福島正則らとはそりが合わず、関ヶ原の戦いの遠因となった。関ヶ原の戦いでは西軍の中心人物であった徳川家康率いる東軍に敗れ、処刑された。三成は、軍事的才能よりも実務官僚としての能力にすぐれ、兵站(へいたん)の掌握や民政の実施、服属大名との折衝に辣腕を振るった。秀吉をして「才器でわれに異ならないものは三成のみ」とまで言わしめている。

●石田三成を主人公にした本→「関ヶ原」 司馬遼太郎著

1.自分の優位なモードでの特徴から1つを選び、強みとして機能した場面と、弱みとして機能してしまった場면을記入してください。

あなたのモード：

行動の特徴：

強みとして機能した場面：

弱みとして機能した場面：

2.自分の優位でないモードの中から今後、自分を取り入れていきたいモードを1～2つ選び、その特徴を生かす実際のお仕事上の場면을1～2つ記入してください。

自分を取り入れていきたいモード1：

行動の特徴：

特徴を生かす実際のお仕事上の場面1：

特徴を生かす実際のお仕事上の場面2：

長所はうめばれと短所になる。

短所は自覚すると長所になる。

自分を取り入れていきたいモード2：

行動の特徴：

特徴を生かす実際のお仕事上の場面1：

特徴を生かす実際のお仕事上の場面2：

3. 今回の研修を振り返り、行動拡張（行動の幅を広げる）のためのアクションプランを挙げてください。